

switch 式

[解説動画](#)


switch は、値を返す式としても使えます。次は、**リスト 5-3-1** の switch 文を **switch 式** に書き換えたものです。

リスト 5-3-4 : switch 式

```
package chapter5_3;
import jp.kwebs.lib.Input;
public class Sample4 {
    public static void main(String[] args) {

        int s = Input.getInt();
        String msg = switch( s ){           ❶
            case 100                        -> "正常終了";           ❷
            case 200, 201                   -> "ページが存在しない";
            default                          -> "内部エラー";       // 省略できない
        };
        System.out.println(msg);          ❸
    }
}
int s = ...;
```

switch 式は、式なので、❶のように**代入文の形で**使い、❸のように、末尾にセミコロンが必要です。

switch 式は、case によって異なる値を返す式です。switch 文と書き方は似ていますが、-> の右側には、処理ではなく、❷のように**戻り値だけ**を書きます。ここに書いた値が式の値になります。

例では、s が 100 の場合は、" 正常終了 " を返し、200 または 201 の場合は、" ページが存在しない " を返します。そして case にマッチしないときは、" 内部エラー " を返します。

注意しなくてはいけないのは、switch 式は必ず値を返さねばならないため、**default を省略できない**ことです。default がないとコンパイルエラーになります。

また、次の**リスト 5-3-5**のように、switch 式でもブロックを使えます。

ただし、ブロックの中で値を返すには、return ではなく、❶のように、キーワード **yield** を使います。